Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 22第33号
2022年（令和四年） 11月25日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

11/10～11/16のNYMEX・WTI先物市場は85.59～88.96ドルの範囲で推移した。

11月17日は、米国セントルイス連銀総裁の積極的利上げ継続支持発言や中国のコロナ感染再拡大の報道で、世界的な景気後退懸念が高まり、続落した。12月限の終値は前日比3.95ドル安の81.64ドル。

週末18日は、昨日に続き、米国ボストン連銀総裁の積極的利上げ発言があり、また、中国当局から感染者拡大、北京における店内飲食制限の発表もあり、両国の景気後退による石油需要減少懸念から、3日続落した。12月限の終値は前日比1.56ドル安の80.08ドル。

週明け21日は、引き続き、中国の感染再拡大に伴う石油需要減少懸念、また、サウジアラビアが次回12月4日のOPECプラス協議で50万b/d増産を検討中との報道で、4営業日続落した。直後、サウジのアブドルアジズ・エネルギー相が否定のコメントを発表し、買い戻しはあったものの、終値は節目の80ドルを割った。12月限の終値は前営業日比0.35ドル安の79.73ドル。

22日は、前日の増産検討報道に対するサウジの否定コメントで、OPECプラスの減産継続観測が強まり、反発した。米国株式の値上がりも上昇要因となったが、中国の感染再拡大報道は上値を抑えた。この日から取引の中心限月に繰り上がった1月限の終値は前日比0.91ドル高の80.95ドル。

23日は、先進7か国（G7）と欧州連合（EU）が検討中のロシア産原油の上限価格について、65～70ドルを想定しているとの報道で、実勢取引価格と変わらないとして、ロシアの原油生産量はあまり減らないとの観測から、需給ひっ迫懸念が後退し、反落した。また、この日発表の先週末時点の米国原油在庫が市場予想を上回る取り崩しとなったこと、経済開発協力機構（OECD）が2023年の世界経済成長見通しを2.2%に下方修正したことも、値下がり要因となった。1月限の終値は前日比3.01ドル安の77.94ドル。

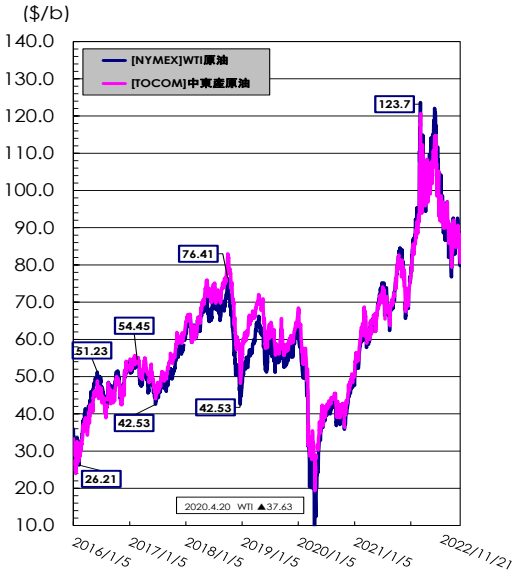
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（1月渡し）は、11月10日～16日の間、87.70～91.10ドルの範囲で推移した。11月17日87.40ドル、18日85.10ドル、21日82.40ドル、22日82.20ドルで推移した。

為替は、11月10日～11月16日の間、139.57～146.41円の範囲で推移した。11月17日139.52円、18日140.29円、21日140.36円、22日142.10円で推移した。

財務省が11月17日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、10月下旬の原油輸入平均CIF価格は、96,213円で、前旬比36円高、ドル建て104.26ドルで前旬比1.53ドル安、為替レートは1ドル/146.70円だった。また、同日発表の10月の原油輸入平均CIF価格は、96,684円、前月比827円安、ドル建て105.96ドルで前月比4.83ドル安、為替レートは1ドル/145.07円だった。

そのような中で、11月21日時点の価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油も同0.2円の値下がり、灯油は3円の値下がり（18リットルベース）であった。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は3週連続の値下がりとなった。ガソリンの全国平均価格は167.6円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は25.7円となった。

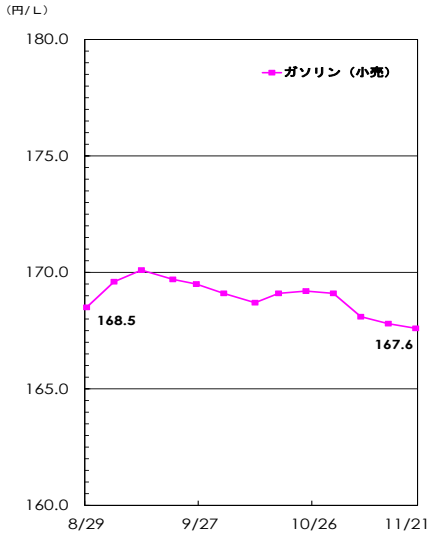
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	11/13 ~ 11/19	3,085	▲ 118	▲ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	83.2	▲ 3.2	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	11/19	11,701	▲ 514	▲ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	11/21	80.57	▼ -7.90	▲ 6.4
	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	11/21	79.73	▼ -6.14	▲ 3.0
	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	10月下旬	104.26	▼ -1.53	▲ 27.38
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	96,213	▲ 36	▲ 42,345
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	146.70	▼ -2.17	▼ -35.30
	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	11/21	141.36	▼ -0.76	▼ -26.26



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		11/13 ～ 11/19	924	▼ -41	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	815	▲ 48	▼ –
	輸出		〃	48	▼ -2	▲ –
	在庫		11/19	1,798	▲ 61	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	11/15 ～ 11/21	73.3	➡ 0.0	▼ -2.7
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/15 ～ 11/21	73.5	▼ -2.4	▲ 0.5
		(TOCOM/中部)	11/21	71.5	▼ -1.1	▼ -2.7
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	11/21	167.6	▼ -0.2	▼ -1.1

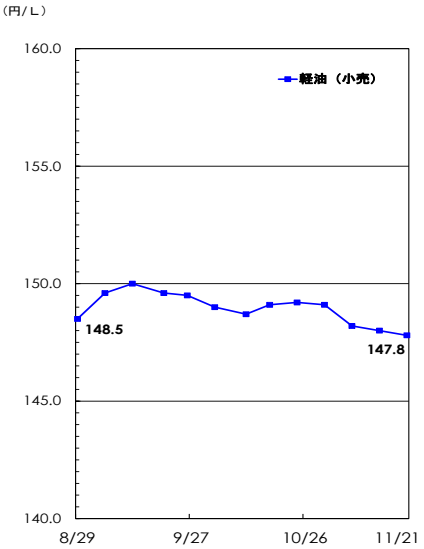
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

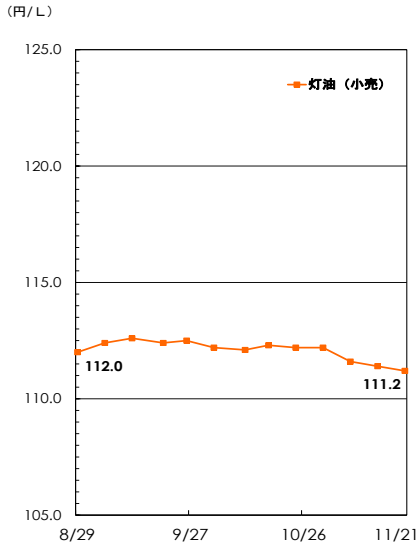
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		11/13 ～ 11/19	789	▲ 56	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	588	▼ -57	▼ –
	輸出		〃	142	▲ 32	▲ –
	在庫		11/19	1,371	▲ 58	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	11/15 ～ 11/21	75.5	▲ 0.6	▼ -1.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/15 ～ 11/21	76.8	▼ -0.2	▼ -2.1
		(TOCOM/中部)	11/21	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	11/21	147.8	▼ -0.2	▼ -0.7

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		11/13 ～ 11/19	306	▼ -4	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	182	▲ 29	▼ –
	輸出		〃	50	▲ 20	▲ –
	在庫		11/19	2,673	▲ 74	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	11/15 ～ 11/21	76.4	➡ 0.0	▼ -0.4
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/15 ～ 11/21	80.6	▼ -0.9	▲ 6.7
		(TOCOM/中部)	11/21	79.5	▲ 1.0	▲ 5.5
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	11/21	111.2	▼ -0.2	▲ 2.9



■ 関連情報

1　海外/原油

当週（11月17日～23日）のWTI石油先物市場は、80ドルを挟む展開であったが、サウジの次回OPECプラス会合における報道で乱高下、ロシア産原油の上限価格に関する報道もあって、80ドル割れの水準で終わった。11月17日の81.64ドルから11月23日の77.94ドルと推移した。

11月23日発表の18日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫情報によると、原油在庫は前週比370万バレル減と取り崩しとなったものの、ガソリン在庫は前週比310万バレル増と市場予想（38万バレル増）を大きく上回る積み増しとなった。

EIAによると、11月21日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比11.4セント値下がりの1ガロン3.648ドル（136.1円/㍑）と2週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比8.0セント値下がりの1ガロン5.233ドル（195.2円/㍑）と2週連続の値下がりであった。

ベーカーヒューズ社によると、11月18日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比1基増の623基と3週連続の増加となった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2022年11月13日～11月19日に休止したトッパー能力は22.5万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した（全処理能力は333.1万バレル/日）。

原油処理量は308.5万klと、前週に比べ11.8万kl増加。前年に対しては16.3万klの増加。トッパー稼働率は83.2%と前週に対して3.2ポイントの増加、前年に対しては7.3ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.3%減、ジェット/8.9%増、灯油/1.4%減、軽油/7.7%増、A重油/16.3%減、C重油/13.8%増。今週のC重油の輸入は0.3万kl（前週比0.3万kl増）。軽油の輸出は14.2万kl（前週比3.2万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は前週比でガソリン、灯油、C重油が増加、その他の油種で減少した。前年比ではジェットが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は81.5万kl（対前週6.3%増）と2週連続で増加した。ジェット4.0万kl（対前週70.3%減）、灯油18.2万kl（対前週18.9%増）、軽油58.8万kl（対前週8.9%減）、A重油18.9万kl（対前週20.3%減）、C重油20.0万kl（対前週15.0%増）。

（単位：千KL）

	今週 (11/13 ~ 11/19)	前週 (11/6 ~ 11/12)	前週比	
ガソリン	815	767	▲ 48	(6%)
ジェット燃料	40	135	▼ -95	(-70%)
灯油	182	153	▲ 29	(19%)
軽油	588	645	▼ -57	(-9%)
A重油	189	238	▼ -49	(-21%)
C重油	200	174	▲ 26	(15%)
合　計	2,014	2,112	▼ -98	(-5%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

11月19日時点の在庫は全ての油種で積み増しとなった。前年に対しては灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは179.8万kl、前週差6.1万kl増。前年に対しては20.5万kl多い。

灯油は267.3万kl、前週差7.4万kl増。前年に対しては4.4万kl少ない。

軽油は137.1万kl、前週差5.8万kl増。前年に対しては4.7万kl多い。

A重油は78.2万kl、前週差1.3万kl増。前年に対しては7.4万kl多い。

C重油は187.2万kl、前週差2.5万kl増。前年に対しては10.2万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (11/19)	前週 (11/12)	前週比	
ガソリン	1,798	1,737	▲ 61	(4%)
ジェット燃料	937	895	▲ 42	(5%)
灯油	2,673	2,599	▲ 74	(3%)
軽油	1,371	1,313	▲ 58	(4%)
A重油	782	769	▲ 13	(2%)
C重油	1,872	1,847	▲ 25	(1%)
合　計	9,433	9,160	▲ 273	(3.0%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

11月15日～21日のドル建て指標原油価格は前週比値下がりし、為替レートも円高で、元売会社の原油コストは、6.5円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに先週の補助金額32.3円を加えたコスト上昇額25.8円に、補助金25.7円が支給されることから、次週（11/24～11/30）の元売会社の実質的な卸価格は0.1円の値上げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

11月15日～21日の製品スポット市況は、11月8日～14日平均と比べ、ガソリン・灯油・軽油の先物取引、灯油の海上の値下がり、ガソリン・灯油の陸上の横ばいを除いて、他の取引・油種で値上がりした。

直近週（11/15～11/21）の陸上スポット価格平均値は、前週（11/8～11/14）比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.6円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（11/15～11/21）に、前週（11/8～11/14）比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油は0.4円の値下がり、軽油0.3円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは2.4円の値下がり、灯油は0.9円の値下がり、軽油は0.2円の値下がりだった。

（RIM）　（単位：円/㌔㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (11/15 ~ 11/21)	前週 (11/8 ~ 11/14)	前週比
スポット価格	レギュラー	73.3	73.3	➡ 0.0
	灯油	76.4	76.4	➡ 0.0
	軽油	75.5	74.9	▲ 0.6

（TOCOM）　（単位：円/㌔㍑）

[期近物/終値] 〔平均〕		今週 (11/15 ~ 11/21)	前週 (11/8 ~ 11/14)	前週比
先物価格	レギュラー	73.5	75.9	▼ -2.4
	灯油	80.6	81.5	▼ -0.9
	軽油	76.8	77.0	▼ -0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値　（11/15～11/21実績値）　（単位：円/㌔㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	➡ 0.0	▼ -2.4	▼ -1.2
灯油	➡ 0.0	▼ -0.9	▼ -0.5
軽油	▲ 0.6	▼ -0.2	▲ 0.2
A重油	▲ 0.4		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

11月21日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の167.6円、軽油も同0.2円安の147.8円、灯油も18㌔㍑ベースで3円安の2,002円（1㌔㍑ベースでは同0.2円安の111.2円）。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は3週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは14県、横ばいは7県、値下がりは26都道府県だった。全国最安値は宮城県の159.3円、その次は埼玉県の161.3円であった。他方、最高値は長崎県の182.2円だった。最も値上がりしたのは島根県（前週比0.6円高）、横ばいは長崎県等7県、最も値下がりしたのは奈良県（同1.0円安）だった。

次回調査時（11/28）のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

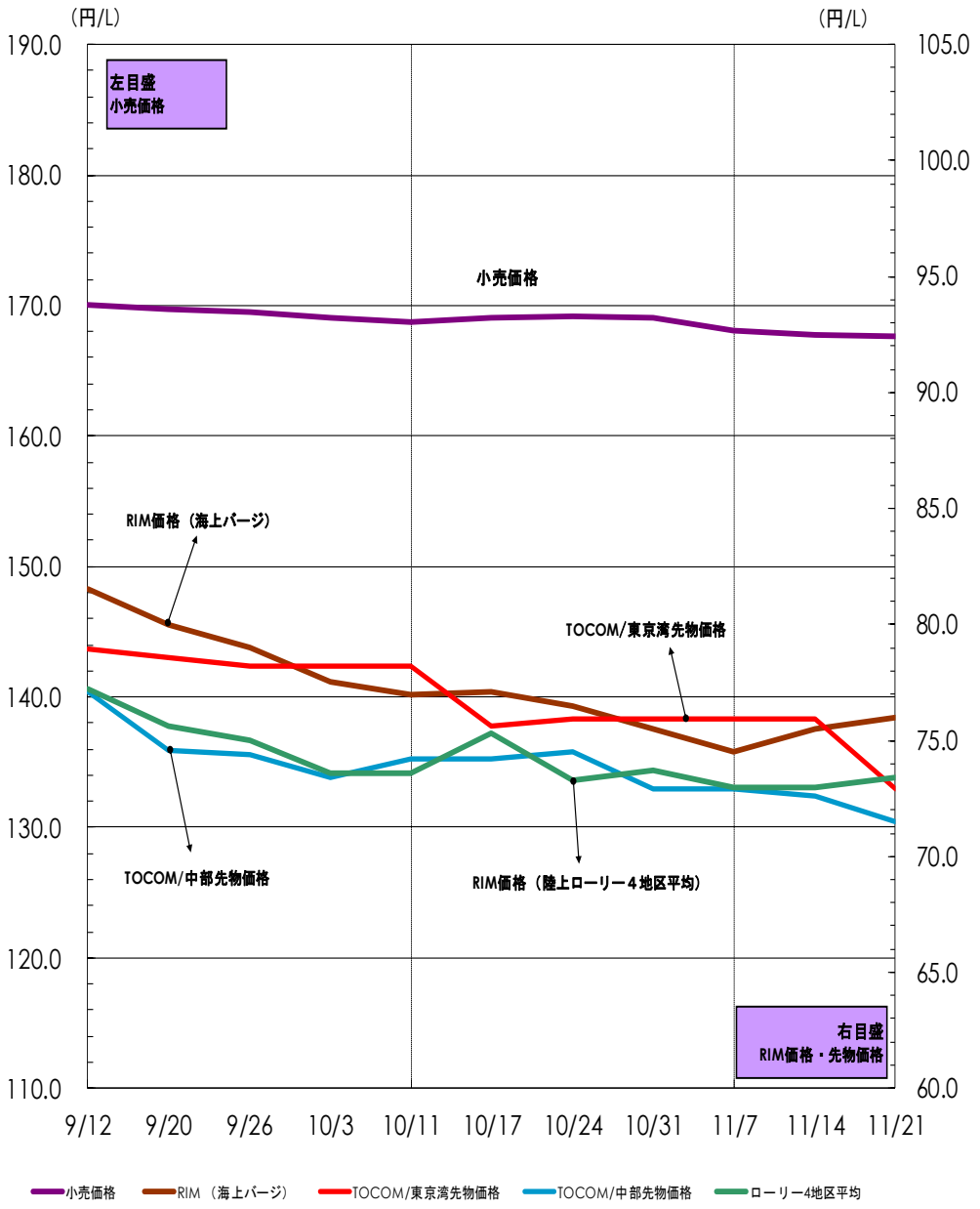
（単位：円/㌔㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週 (11/21)	前週 (11/14)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	167.6	167.8	▼ -0.2	08/8/4	185.1
	灯油	111.2	111.4	▼ -0.2	08/8/11	132.1
	軽油	147.8	148.0	▼ -0.2	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/9/12　～　2022/11/21)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2022第34号）の公表は、12/2（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。